

者即號日女道丘とある鬮子を日女と云るも此に由ありて
聞の姑附て後考を俟つ

祭日 九月十八日十九日

社格 村社

所在 唐院村(磯城郡川西村大字唐院)

服部神社二座 祭額

祭神 天御持命

今按この祭神一座は姓氏錄大和神別に服部連天御中主命
十一世孫天御持命之後也とあれば疑ひなけれど今一座は
未だ詳ならず

祭日 村屋神社

社格 明細帳に村屋坐彌富都比賣神
社境内服部神社あり無格社

所在 藏堂村彌富都比賣(磯城郡川東村大字藏堂)

今按社地往昔大安寺村にありしを天正頃今の地に遷さる
舊址大安寺村の内字波津里神と云田地の字あり其南を字
神館と云又北を神子田と云ひ西を信濃など云字ありて何
れも本社によりしあり

富都神社 祭額

祭神 建布都神

今按社傳祭神登美夜思賣命とのれど社號を富都など非訓

して云る説と聞ゆればとりがたし又素盞鳴尊武雷命とあ
る内武雷と云るぞ本社祭神なるべき其は建御雷之男神
亦名建布都神とも云れば建をはぶきて富都神と申せしな
るべし故今之を訂せり

祭日 九月八日

社格 村社

所在 富本村(磯城郡都村大字富本)

糸井神社 祭額

祭神 豐藏入姫命

祭日 三月十六日八月二十一日

社格 村社

所在 市場村(明細帳に結(磯城郡川西村大字結崎)

村屋神社二座

祭神 經津主神

武甕槌神

今按奈良縣注進にこの祭神二座を記せれど天武紀に村屋
高市牟三之神のことみえたるを思ふに本文は村屋坐彌富都
彼時の故事によりて高市御縣坐鴨事代主神と牟佐坐生靈
神と二座を合せて同地に祭れるものなるべし

祭日 彌富都比賣
神社に同じ

社格 (明細帳に村屋坐彌富都比賣神)
社境内村屋神社あり無格社

所在 藏堂村彌富都比賣(磯城郡川東村大字藏堂)

鏡作伊多神社

祭神 伊斯許理度賣命

祭日 九月二十一日

社格

所在 (嚴錄津村明細十市郡保津村式下郡宮古村有)
今按奈良縣の注進に宮古村とあれど大和志に保津村に神

社あり社傍小池あり土人云村東三丁に字伊多敷と云田地
あり此所伊多神社の舊地なり又村の申方六丁に字鏡池あ
り今は宮ノ池と云亦田地の字に的場政所纏懸神子橋など
の名も存せりと云へれば此地ならむ猶よく考べし

鏡作麻氣神社

祭神 麻比止都禰命

祭日 八月二十三日

社格 村社

所在 小坂村字寺(磯城郡川東村大字小坂)

久須須美神社

祭神 天久之比命

大和國 高市郡

事代主命

今按社傳祭神二座の内天久之比命とあるは社號の久須須
美と云るによりて云出たる説にはあらじ歎されど它に祭
神の考もあらねば姑く社説に従ふ

祭日 十一月二十三日 彌富都比賣
神社に同じ

所在 藏堂村彌富都(磯城郡川東村大字藏堂)

(明細帳に村屋坐彌富都比賣)
賣神社境内にあり無格社

高市郡五十四座 大三十三座

高市御縣坐鴨事代主神社 大月次

祭神 鴨事代主命

今按舊事記都味齒八重事代主神坐倭國高市郡高市社また
出雲國造神賀詞に事代主命御魂字奈提坐とあるは即
此神社を云るなり

神位 清和天皇貞觀元年正月二十七日甲申奉授大和國從
二位高市御縣鴨八重事代主神從一位

祭日 九月三日

社格

所在 雲梯村字宮

(嚴錄には高殿村とあり明細帳には雲梯村字宮臨には川俣神社あ
り川俣神社は下に所見あり同村なれども字異りて突合せず高殿
村は明細帳に無格春日神社とあるも見えず十四年郡區町村一覽に
も大和國中に見えずとしかく本社の所在探れ得ず高市郡に法花寺